

平成12年度
年報

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE
北海道立文学館・(財)北海道文学館

■ 目 次 ■

■文学館の歩み	1
■北海道立文学館の設立経緯	2
■目的及び事業	3
■平成12年度事業概要	
I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業	4
II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業	4
1 展覧会事業 (1) 常設展	
(2) 特別企画展等	
2 講演会・講座等事業	
III 北海道文学に関する調査研究事業	14
IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業	14
V 啓発広報事業	15
VI 刊行物の刊行事業	15
VII 北海道立文学館の管理運営受託事業	15
VIII その他の付帯事業	16
■統計・資料	
展覧会別観覧状況 閲覧室利用状況 総括表	17
資料収集状況 主な購入特別資料一覧	18
■組織及び役職員	
組織機構図 役員等一覧	22
専門委員会構成一覧 職員名簿	23
■諸会議・運営日誌	24
＜付録＞北海道立文学館利用規則	26

■ 文学館の歩み ■

年 次	事 項	年 次	事 項
昭和42	北海道文学館設立総会、館報1号発行、有島武郎文学展	昭和63	北海道歌人会創立35周年記念展、北海道新聞文学賞展、『北海道文学読本』発行、没後30年久保栄文学展、近代日本の文豪一森鷗外展、財団法人北海道文学館設立
43	文学に見る北方風物展	平成元	胆振文学展・目で見る風土と文学、俳句誌「葦牙」創刊700号記念展、北海道女流作家第一号森田たま展、北海道川柳展、作家生活25年記念三浦綾子展（札幌、旭川）
44	北海道旅の文学展	2	児童文学「新十津川物語」展（札幌、新十津川）、移動展・石川啄木と野口雨情展、文化情報誌「ニュースきょうどう・カムイミントラ」展、歌誌「新墾」創刊60周年記念展、北のロマンを奏でる一渡辺淳一文学展、市町村文芸誌展一道東・道北編
45	伊藤整・亀井勝一郎文学展	3	市町村文芸誌展一道央・道南編、移動展・石森延男と室蘭の児童文学展、文学展・北海道花の歳時記、来道60年記念斎藤茂吉展、文芸誌「赤煉瓦」とその周辺展
46	北海道詩歌展	4	設立25周年記念・有島武郎と木田金次郎展、北電文化誌「フロンティア」著名作家原稿展、文学展・北海道花の歳時記（室蘭）、北の文学風物誌展（冬の巻）、らいらっく文学賞展
47	目で見る札幌文学散歩	5	俳句誌「アカシヤ」500号記念展、札幌文学散歩展、没後25年・道立文学館着工記念伊藤整文学展、北海道詩人協会40周年記念展
48	藤村における旅資料展、久保栄文学展、札幌の文学・百年展	6	文学・北の歳時記展、文学展・札幌線沿線の旅、北の山と文学展、和田謹吾理事長死去
49	文学にみる札幌風物展、北海道女流文学展、小田観螢・人と作品展	7	澤田誠一理事長就任、北海道立文学館開館記念特別展・北の夜明け、所蔵品展・私の愛した抒情詩人たち
50	札幌の作家展（戦前の巻）、戦後30年・北海道文学展、札幌の作家展（戦後の巻）、川柳に見る戦後の札幌展	8	特別企画展・北海道の俳句、特別企画展・久保栄と北海道、所蔵品展・船山馨の文学世界
51	碑にみる北の文学展、林不忘・長谷川四郎兄弟展、石狩川流域文学展、歌人・山下秀之助展	9	特別企画展・森田たまと素木しづ、特別企画展・青春と文学、所蔵品展・書簡に探る作家の素顔
52	札幌の文学サークル展、文学展・北の海、札幌・戦後演劇展	10	特別企画展・北海道の短歌、特別企画展・有島武郎とヨーロッパ、企画展・吉田一穂とその時代
53	文学展・ふるさとの窓、北海道児童文学展、さっぽろの俳句展	11	特別企画展・夏目漱石と芥川龍之介、特別企画展・〈本〉はどこに向かうのか、所蔵品展・本庄陸男と『石狩川』
54	札幌市資料館に館看板掲示、現代北海道短歌展、風土のなかの文学碑展、『北海道文学地図』発行	12	特別企画展・挿絵と装幀の小宇宙 特別企画展・「北緯五十度」の詩人たち 企画展・花咲く北の川柳展
55	現代北海道俳句展、北海道岬文学展、児童文学と絵日記展一石森延男・その周辺一		
56	雑誌「北方文芸」展、石森延男児童文学展、館所蔵文芸雑誌閲覧開始、北海道岬・文学展、高橋留治氏から3000余冊の詩書等寄贈、北海道文学全集展		
57	島木健作文学展、船山馨文学展、北海道・湖文学展、鮫島交魚子・加藤愛夫文学展		
58	寺田京子・宮田益子・森みつ三人展、文学展・大地と人間、にんげん坂本直行展一その絵と文学一		
59	北海道児童文学全集展、北海道演劇資料展		
60	北海道文学展示室が常設展に移行、北海道俳句展、北原白秋展、文学にみる北方風物展、更科源蔵理事長死去、『北海道文学大事典』発行、地域文化功労者賞受賞		
61	日本の文学館風景展、和田謹吾理事長就任、歌誌「原始林」40周年記念展、「石川啄木と野口雨情」文学風物展、石森延男と札幌の児童文学展、詩誌「核」30周年記念展		
62	『北海道文学百景』『北海道文学絵はがき』発行、北海道文学館歩み展、北海道文学館20周年記念祝賀会および記念展、俳句誌「氷原帯」創刊40周年記念展		

■ 北海道立文学館の設立経緯 ■

- 昭和62年 9月 北海道立文学館（以下、文学館と略）期成会が設立される。
- 昭和63年11月 財団法人北海道文学館設立が認可される。
- 平成 2年 3月 文学館設置調査費が議決される。
- 平成 2年 8月 文学館設置検討委員会が設置される。
- 平成 3年 3月 文学館設置検討委員会報告書が作成される。
- 平成 3年10月 文学館基本構想が策定される。
- 平成 4年 2月 札幌市中央区中島公園内道有地が建設予定地に決定する。
- 平成 4年 4月 構想設計コンペ審査委員会が開催される。
- 平成 4年11月 基本設計がまとまる。
- 平成 5年 1月 実施設計がまとまる。
- 平成 5年 7月 建設工事に着工。
- 平成 6年12月 建設工事が完成。
- 平成 7年 1月 4日 北海道立博物館条例の一部を改正する条例が施行される。
北海道立文学館利用規則が施行される。
- 平成 7年 4月 1日 財団法人北海道文学館が北海道教育委員会より文学館の管理運営を委託される。平成 7年度委託契約書締結。
- 平成 7年 9月22日 開館記念式典が挙行される。
- 平成 7年 9月23日 一般公開される。

■ 目的及び事業 ■

北海道立博物館条例（抄）

第1条 北海道における教育、学術及び文化の振興を図るため、北海道立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
北海道立北方民族博物館	網走市
北海道立文学館	札幌市

第5条 教育委員会は、公共団体又は公共的団体に対し、博物館の管理を委託することができる。

財団法人北海道文学館寄附行為（抄）

（昭和63年11月1日 北海道教育委員会許可
平成7年2月2日 北海道教育委員会一部変更認可
平成7年4月7日 北海道教育委員会一部変更認可）
（目的）

第3条 この法人は、北海道にゆかりのある文学資料を収集保存し、広く道民の利用に供するとともに北海道の風土に根ざした文学の振興に必要な事業を行い、もって北海道の文化の創造と発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、北海道の区域内において次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 北海道にゆかりのある文学資料を収集、整理、保存し、及び道民の利用に供すること。
- (2) 文学に関する展覧会、文芸講演会、文芸講座等を開催すること。
- (3) 文学に関する調査研究を行うこと。
- (4) 文学愛好団体等の活動に対し支援すること。
- (5) 道民の文学に対する関心を高めるため啓発広報活動を行うこと。
- (6) 文学に関する各種刊行物を編集及び刊行すること。
- (7) 北海道教育委員会の委託を受けて、北海道立文学館の管理運営を行うこと。
- (8) 前各号に掲げる事業に附帯する事業。

北海道立文学館利用規則（抄）

（北海道教育委員会規則平成7年1月4日施行）

（文学館の目的）

第1条の2 北海道立文学館（以下「文学館」という。）は、文学に関する書籍、原稿、書簡、文献、写真その他の資料及び文学者の遺品等（以下「文学資料」という。）を収集し、保存し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする。

（文学館の事業）

第1条の3 文学館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 1 文学資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 文学館が収集した文学資料を閲覧に供すること。
- 3 文学に関する展覧会、講演会、講座、映画鑑賞会その他の催し（以下「文学に関する催し」という。）を開催し、及び他の行うそれらの催しに協力すること。
- 4 一般公衆に対して、文学資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
- 5 特別展示室又は講堂（以下「特別展示室等」という。）を文学に関する催しの利用に供すること。
- 6 文学及び文学資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 7 文学資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 8 文学に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書を作成し、及び配布すること。
- 9 他の文学館、図書館、美術館、博物館、研究機関等と緊密に連携し、及び協力し、刊行物及び情報の交換、文学資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 地域における学校、図書館、公民館等の教育又は文化に関する諸施設が行う文学に関する活動を援助すること。
- 11 その他文学館の目的を達成するために必要な事業

■ 平成12年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第4条第1号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 寄贈資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料） 3,002点
- 購入図書・雑誌 1,385点
- その他の購入特別資料 178点
- レプリカ作成・VTR、テープ、CD 5点

（別掲の統計・資料編資料編「資料収集状況」欄参照）

整理・保存 カード作成及び収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等
閲覧 利用者 延べ3,432人

II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第4条第2号に掲げる事業は、次のとおり行った。

1 展覧会事業

(1) 常設展「北海道文学の流れ」

会期 通年
会場 北海道立文学館常設展示室
入場者 8,761人

展示の構成・内容は開館当時のものを踏襲しているが、昨年度、常設展示室内に開設された特設コーナーでは「新聞連載小説の挿絵と原稿」をテーマに、当館が収蔵している1950年代の新聞連載小説の挿絵原画と自筆原稿を展示した。

以下に、展示編成の基本を掲げておく。なお、〔 〕内は監修者名を示す。

〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・S・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治9年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在住期の足跡を概観した。

〈北海道文学の流れ—明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

* 「空知川の岸边」国木田独歩

国木田独歩、佐々城信子

* 開拓期を彩る作家群

岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳富蘆花ほか

* 漂泊の人・石川啄木

石川啄木、石川節子、橋智恵子、野口雨情ほか

* 有島武郎をめぐる人々

有島武郎、有島生馬、里見淳、武者小路実篤、志賀直哉

* 道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

* 同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか

* 来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）— 吉屋信子、宮本百合子、橋外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ—昭和前期〉〔西村信〕

* プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

* 若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

* 来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見淳、鶴田知也ほか

* 農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

* 戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ—昭和後期〉〔神谷忠孝〕

* 戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

* さまざまな座標Ⅰ

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

* 旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

* さまざまな座標Ⅱ

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

* 来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

* 活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔永井浩〕

* 草創期

児玉花外、高村光太郎、三木露風、宮沢賢治、北原白秋

* 生成期

更科源蔵、吉田一穂、左川ちか、猪狩満直、鈴木政輝、加藤愛夫、和田徹三ほか

* 戦争と詩

百田宗治、今井鴻象、鷺巣繁男、三谷木の実、牧章造ほか

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

* 北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

* 来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

* 口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

* アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

* 北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

* 俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

* 花ひろく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか

* 俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか

* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 特別企画展

● 「挿絵と装幀の小宇宙～竹久夢二から川上澄生まで～」

会 期 平成12年4月29日(土)～7月2日(日) (52日間)

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 3,284人

特別企画展「挿絵と装幀の小宇宙～竹久夢二から川上澄生まで～」は、文字テキストとともに「本」を構成する重要な要素である「挿絵」と「装幀」に焦点をあて、相互にかかわり合って形作られるイメージの小宇宙の姿を探った。

展示室では、「世界名作全集」(講談社)や「子どもの伝記全集」(ポプラ社)で挿絵・装幀に腕を振るった梁川剛一をはじめ、一世を風靡した竹久夢二や芹沢銈介の仕事や、三岸好太郎、川上澄生、棟方志功、松本竣介、佐藤忠良など北方にゆかりのある芸術家が手がけた挿絵・装幀作品が紹介された。また、特別装幀本(特装本)と呼ばれる豪華本の数々も展示し、工芸品としての「本」の美しさにも光を当てることができた。

● 「『北緯五十度』の詩人たち」

会 期 平成12年8月12日(土)～10月9日(月) (51日間)

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 1,246人

道東の弟子屈町を拠点に活動していた詩人・更科源蔵は、昭和5年から10年にかけて詩誌「北緯五十度」を発行し、国内の多くの詩人たちに向けて北からのメッセージを発信していた。本展では、「北緯五十度」を通じてなされた更科と各地の詩人仲間との交流を多彩な資料によって紹介した。

「北緯五十度」は発行部数が僅少で、詩史上で名は知られていてもその実態を把握することは困難であるといわれていたが、今回の展示を通じてその「素顔」に迫ることができ、併催の講演会、フォーラム等とともに好評のうちに終了した。

※企画展「版画に生きる大自然～手島圭三郎北の命を彫る～」

会 期 平成13年 1月 9日(火)～平成13年 1月28日(日) (18日間)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 902人

本展覧会では、江別市在住の版画家手島圭三郎氏の新作絵本シリーズ「極寒に生きるいきものたち」から既刊4冊の全木版絵本原画を展示した。会場では、木版原画の他に絵本が完成するまでの努力を物語る膨大な下絵や、氏が長年にわたって描き続けてきたフィールドスケッチノートが初公開されたほか、日常の製作活動で使われる彫刻刀やバレン等、手島作品の魅力を支える「秘密」の数々が紹介され、観覧者の興味を呼んだ。また、付帯事業として、ハーブ演奏と朗読による「おおはくちょうのそら」上演、手島氏自身が作品にこめられた哲学を語った「スライド・トーク 手島圭三郎自作を語る」も実施され多くの観客で賑わった。

●企画展「花咲く北の川柳展」(26日間)

会 期 平成13年 2月10日(土)～ 3月11日(日)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 685人

北海道川柳連盟の協力を得て実施された「花咲く北の川柳展」では、明治から昭和にかけて、北海道の川柳史を飾った川柳人12人をパネルと色紙、短冊などで紹介するとともに、川柳界に大きな足跡を残した柳人や現在道内各地で活躍している柳人もとりあげた。

また、有珠山噴火を詠った地元の小中学生の川柳作品や、現代の風俗を詠った川柳に漫画を添えた色紙を紹介するコーナーを設けるなど、川柳の奥の深さを再認識する展覧会となった。関連事業として、全道から川柳作品を募集したコンテストやワークショップ、川柳大会、シンポジウム、講演会などを連続して行い、いずれも盛況であった。

※企画展「Visual Poetica 2001 in 札幌」

会 期 平成13年 3月17日(土)～ 4月 8日(日) (12日間)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 186人

同展実行委員会と(財)北海道文学館の共催で実施された企画展「Visual Poetica 2001 in 札幌」(ヴィジュアル・ポエトリイ=視る詩、あるいは視覚詩)では、池澤夏樹氏(小説家)のパーソナルコンピュータによる視覚詩、山口昌男氏(文化人類学者・札幌大学学長)のエッチング、村上善男氏(美術家)のミックスト・メディア、ヤリタミサコ氏(詩人)の音声機器を使用した視覚詩など、ユニークな作品が多数出品され、多くの人々の関心を集めた。

(3) ファミリー文学館

●夏休みファミリー文学館「ぼくもわたしも絵本作家」(ワークショップ)

会 期 平成12年7月25日(火)～7月29日(土) (5日間)
会 場 北海道立文学館講堂
講 師 当館事業課職員
参加者 59人

昨年に引き続き、手作り絵本のワークショップ「ぼくもわたしも絵本作家」は、参加する子どもたちが自ら主役となって世界に一つしかない自分だけの手作り絵本をつくることを目的として実施した。

小学校3, 4年生の部、5, 6年生の部とに別れ、オリエンテーションを含めそれぞれ5日間の日程でオリジナル絵本の完成をめざした。また、完成した作品は秋のファミリー文学館「〈絵本の館〉のたからもの」にあわせて展示された。

●秋のファミリー文学館「〈絵本の館〉のたからもの」(絵本原画展)

会 期 平成12年10月28日(土)～11月19日(日) (20日間)
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 2,054人

秋のファミリー文学館は「〈絵本の館〉のたからもの」と題して、剣淵町「絵本の館」が収蔵する絵本原画展を実施した。本展では、60点余りの絵本原画に加え、第10回を迎えた「けんぶち絵本大賞」や「えほん祭り」の取り組みの様子を写真パネルで紹介するとともに、特設した閲覧コーナーにおいて絵本大賞受賞全作品を紹介した。また記念講演会及び「剣淵・生命を育てる大地の会」で生産された無・減農薬野菜や知的障害者授産施設「西原学園」で作られた木工品、陶芸品の販売も行われた。

・ファミリー文学館記念講演会「絵と文・出会いの裏話」

講 師 加藤多一
日 時 平成12年10月20日(土) 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 78人

(4) 「～わくわく～こどもランド」

※～わくわく～こどもランド

会 期 平成12年5月～平成13年3月（毎月第2土曜日 11回実施）
会 場 北海道立文学館講堂
参加者 821人
出 演 人形劇団「豆の木」、「おはなしなあに」ほか

「～わくわく～こどもランド」は、平成12年5月から平成13年3月まで、毎月第2土曜日を中心に11回の催しを行った。内容も、絵本読み聞かせ、パネルシアター、ボードビル、人形劇、腹話術などバラエティーに富んだものを、地域のボランティアサークル等の協力で実施でき、毎回多くの子どもたちや付き添いのご両親に楽しんでいただくことができた。

2 講演会・講座等事業

(1) 文芸講演会

- 演 題 「書物をめぐる断章」
講 師 山口昌男（札幌大学学長）
日 時 平成12年5月20日（土） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 137人
- 演 題 「昭和初期の文学状況から～更科源蔵から小笠原克へ～」
講 師 保昌正夫（立正大学教授）
日 時 平成12年9月2日（水） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 48人

(2) 文芸セミナー

- 演 題 「響き合う美術と文学～装幀の仕事・装幀の楽しさ～」
講 師 村上善男（美術家・詩人）
日 時 平成12年7月1日（土） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 51人
- 演 題 「歌人 中城ふみ子をめぐって」
講 師 吉田真弓（短歌研究家）
日 時 平成12年10月7日（土） 午後2時
会 場 北海道立文学館講堂
聴講者 89人

●演 題 「私のネット文学体験」

講 師 佐野良二（作家）

日 時 平成12年11月3日（土） 午後2時

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 14人

(4) 文芸講座等

※「高橋揆一郎・自作朗読とトークのつどい」

講 師 高橋揆一郎（作家）

日 時 平成12年8月13日（日） 午後2時

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 47人

※映画上映とトーク「第七官界彷徨～尾崎翠を探して～」

講 師 浜野佐知（映画監督）、山崎邦紀（脚本家）、山口昌男（札幌大学学長）

日 時 平成12年8月26日（土）

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 135人

※『北緯五十度』の詩篇を読む会

講 師 工藤正廣（北海道大学教授）

日 時 平成12年9月10日（日） 午後2時

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 48人

※フォーラム「現代詩と北海道～『北緯五十度』以後の詩をめぐって～」

パネリスト 永井 浩（詩人）、原子 修（詩人・札幌大学教授）、光城健悦（詩人）、
東 延江（詩人）、笠井嗣夫（詩人・評論家）、斉藤征義（詩人）、米山将治（詩人）

日 時 平成12年10月23日（土） 午前10時15分

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴 講 者 92人

※スライド・トーク「極寒に生きる生きものたち～手島圭三郎・自作を語る～」

講 師 手島圭三郎（版画家・絵本作家）

日 時 平成13年1月20日（土）

会 場 北海道立文学館講堂

聴講者 135人

※冬休み版画教室

日 時 平成13年 1月10日(水)～12日(金)

講 師 瀬戸節子 (版画家)

会 場 北海道立文学館講堂

参加者 23人

※インテリジェント・スクール「マンガ作家の生活と意見」

講 師 畑中 純 (漫画家)

日 時 平成13年 1月27日(土)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 34人

※フィルムレクチャー

講 師 水戸ひねき (映画監督)

日 時 13年 2月 3日(土)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 68人

※シンポジウム「川柳・世相・人間～激論! 21世紀の川柳」

パネリスト 小檜山博 (作家)、辻脇系一 (俳人)

吉田泉陽 (川柳作家)、斎藤大雄 (川柳作家)

日 時 平成13年 2月17日(土)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴 講 者 86人

※講演会「生きてきた川柳・明日の川柳」

講 師 斎藤大雄 (川柳作家)

日 時 平成13年 2月18日(日)

会 場 北海道立文学館特別展示室

聴講者 84人

(5) 映像鑑賞のつどい（会場は北海道立文学館講堂）

- 作品名 「白痴」（黒澤明監督 1951年）

日 時 平成12年4月22日(土) 午後2時

入場者 127人

- 作品名 「スティング」（ジョージ・ロイ・ヒル監督 1973年 米国）

日 時 平成12年6月17日(土) 午後2時

入場者 58人

- 作品名 「挽歌」（五所平之助監督 1957年）

日 時 平成12年10月21日(土)／11月4日(土) ともに午後2時

入場者 122人／108人

- 作品名 「忠臣蔵」（松田定次監督 1959年）

日 時 平成12年12月2日(土) 午後2時

入場者 109人

- 作品名 「雪国」（豊田四郎監督 1957年）

日 時 平成13年2月12日(月)

入場者 91人

(6) ロビーコンサート

- ※内 容 ギター音楽とトークの夕べ

日 時 平成12年12月23日(土) 午後6時

会 場 北海道立文学館地階ロビー

出 演 赤坂孝吉（ギタリスト）

入場者 98人

- ※内 容 「新世紀に響くハープの調べ」

日 時 平成13年1月9日(火) 午後3時

出 演 池田千鶴子（ハープ）・栗林さとし（朗読）

入場者 95人

(7) ウィークエンド・カレッジ

- ※文学、芸術及び隣接諸分野に体系的にふれながら、さらに高度な専門性を持つ内容を継続的に学習する場として今年度より新たに開講した。

日 時 平成12年11月11日(土)～平成13年3月25日(日)

原則として各月第2、第4土曜、日曜に開講する。

内 容

教 科	科 目	講 師
文 学	近現代日本文学（小説）	神谷忠孝（北海道大学教授） 押野武志（北海道大学助教授）
	近現代日本文学（詩）	笠井嗣夫（詩人・評論家）
外国語	ロシア語原典講読	工藤精一郎（ロシア文学者）
	イタリア語講読	工藤知子（札幌大谷短期大学講師）
文化論	映像論	中澤千磨夫（武蔵女子短期大学教授）
	メディア論	野坂政司（北海道大学教授）
特別講義	美術論特講	浅川 泰（道立近代美術館学芸第二課長）
	漫画論特講	畑中 純（漫画家）
	書誌学特講	小山内時雄（弘前大学名誉教授）
	口承文芸論特講	工藤正広（北海道大学教授）
	「北海道」論	山口昌男（札幌大学学長）
	「東北」論	村上善男（美術家・詩人）
	編集論	石塚純一（札幌大学助教授）
	〃	平原一良（北海道文学館事業課長）

聴講者 397名（延べ人数）

III 北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第4条第3号に掲げる事業は、次のとおり行った。（いずれも国内）

- 和田徹三資料調査
- 更科源蔵資料調査
- 小熊秀雄資料調査
- 藤沢健夫旧蔵資料調査
- 特別企画展、企画展の図録・リーフレット作成

IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第4条第4号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主催名義の使用を承認して支援した。

- 星座の会
文学講演会（3回）
（平成12年5月13日、7月22日、9月30日 北海道立文学館講堂）
- 斎藤茂吉記念中川町短歌フェスティバル実行委員会
「斎藤茂吉記念第7回中川町短歌フェスティバル99」
（平成12年9月15日、16日 中川町山村開発センター）
- (財)札幌市芸術文化財団
「平野啓子語りの世界」
（平成12年9月19日 札幌市教育文化会館小ホール）

- 絵本・児童文学研究センター
「第5回文化セミナー 絵本の可能性」
(平成12年11月12日 小樽市民会館)
- 山の手図書館おはなしかご
「大人が楽しむおはなし会」
(平成12年10月25日 北海道立文学館講堂)
- NHK文化センター松井教室
「北海道ゆかりの文学を読む」
(平成12年10月1日 北海道立文学館講堂)
- 日本児童文学者協会北海道支部
「児童文学学校」
(原則として各月の第1、第3木曜日に開校 北海道立文学館講堂)
- 国際ソロプチミスト札幌フレンズ
「朗読劇と音楽とお話の集い」
(平成13年3月3日 ホテル・ライフォート札幌)

V 啓発広報事業

寄附行為第4条第5号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナー
ちらし等を制作、発行。
- 広報誌「サンクンガーデン」第10号(平成12年10月)、第11号(平成13年3月)の編集発行。
- ※「北海道文学館報」第52号(平成12年7月)、第53号(平成12年12月)の発行。

VI 刊行物の刊行事業

寄附行為第4条第6号に掲げる事業は次のとおり行った。

- 特別企画展「挿絵と装幀の小宇宙」図録(B5版、32頁)の刊行
- 特別企画展「『北緯五十度』の詩人たち」図録(B6変型版75頁)の刊行
- 企画展「Visual Poetica 2001 in 札幌」図録(B5版、32頁)の刊行
- 『2000資料情報と研究』(B5版、54頁)の刊行

VII 北海道立文学館の管理運営事業

寄附行為第4条第7号による道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に取り
交わされた委託契約(4月1日締結)に基づき、適切に行った。

VII その他の付帯事業

●博物館学芸員実習生の受け入れ及び実習指導

平成12年9月26日～10月7日にかけて（計10日間）、札幌大学学生（2人）、札幌学院大学学生（1人）、東京学芸大学学生（1人）に対し行った。

※古書バザール

平成12年9月16日（土）、17日（日） 文学館1階ロビーで実施。

- ・ミニ古書市は地階にて通年実施。ともにチャリティーバザール実行委員会主催。

※印の事業は財団の独自企画のものを示す。

■ 統計・資料 ■

展覧会別観覧状況

区 分	常設展	特 別 企 画 展		企画展	計	企 画 展		ファミリー文学館	
	北海道文学の流れ	挿絵と装幀の小宇宙	「北緯五十度」の詩人たち	花咲く北の川柳		ヴィジュアル・ポエティカ	版画に生きる大自然	ぼくもわたしも絵本作家	絵本の館のたからもの
開催日数	297日	52日	51日	26日	297日	12日	18日	5日	20日
観覧者総数	8,761人	3,284人	1,246人	685人	13,976人	186人	902人	59人	2,054人
有 個 人	一 般	2,751	1,328	287	238	4,604			
	大学生	204	237	14	1	456			
	高校生	140	7	4	11	162			
	小中生	1,300	44	11	21	1,376			
	小 計	4,395	1,616	316	271	6,598			
団 体 料 体	一 般	1,780	1,023	528	119	3,450			
	大学生	388	235	56	6	685			
	高校生	27	24			51			
	小中生	273	29	11		313			
	小 計	2,468	1,311	595	125	4,499			
免 除	1,898	357	335	289	2,879				
合 計	8,761	3,284	1,246	685	13,976				

※ 小中高生は、常設展及び企画展は無料。

閲覧室利用状況

区 分	人数・件数	1日平均
開 室 日 数	297日	
利 用 者 数	3,432人	12人
レファレンス件数	193件	0.6件
資料閲覧件数	177件	0.6件

事業種別来館状況（総括）

	区 分	利用者数
受 託 事 業	展覧会事業	13,976人
	閲覧事業	3,432
	講演会・セミナー事業	558
	文芸映画上映会事業	818
	その他の教育普及事業	2,311
財団独自事業		2,991
計		24,086

資料収集状況

区 分	購入点数	受贈点数	受託点数	特別資料内訳		
				区 分	購 入	受 贈
図書	778	577	0	原稿	128	17
雑誌	607	2,358	0	書簡	15	19
CD-ROM	1	0	0	色紙・短冊	32	7
VTR・テープ	1	1	0	その他	3	23
特別資料	177	66	0	計	178	66
レプリカ	2	0	0			
計	1,566	3,002	0			

主な収集特別資料一覧

種 別	形 態	名 称	作 者
メモ	ノート	(相川修死亡広告)	相川正義
絵画	水彩画	裸婦	小熊秀雄
絵画	水彩画	裸婦	小熊秀雄
原稿	便箋	断喝	池田六象
原稿	便箋	星に歩む	池田六象
原稿	原稿用紙	兎狩り	Walter de la mare
原稿	原稿用紙	(「さとぼろ」23号目次原稿ほか)	
原稿	原稿用紙	さとぼろ第五巻総目次	
原稿	原稿用紙	(さとぼろ原稿)	
原稿	原稿用紙	(さとぼろ原稿)	
原稿	原稿用紙	(「さとぼろ」原稿)	
原稿	原稿用紙	「さとぼろ」所載版画	
原稿	原稿用紙	「さとぼろ」第一巻目録	
原稿	原稿用紙	伊藤義輝木版画集	
原稿	原稿用紙	(「さとぼろ」原稿用紙)	
原稿	原稿用紙	カンミール・マーレウキチ無対象の世界	
原稿	原稿用紙	詩集「雪と麵麴」の自序	相川正義
原稿	原稿用紙	むかしのうた	相川正義
原稿	原稿用紙	六号記	相川正義
原稿	原稿用紙	六号記 義輝兄	相川正義
原稿	原稿用紙	六号記 詩集「風景を歩む」に対する吾がメモ	相川正義
原稿	原稿用紙	(無題)	相川正義
原稿	便箋	無題	相川正義
原稿	原稿用紙	海峡	アヲテ・慧
原稿	原稿用紙	日の出	アヲテ・慧
原稿	便箋	豊平峡	池田六象
原稿	便箋	壁掛	池田六象
原稿	便箋	よき秋	池田六象
原稿	便箋	傷心抄	池田六象
原稿	便箋	心の回転	池田六象
原稿	便箋	雪・女・子供	池田六象
原稿	便箋	氷咲く窓	池田六象
原稿	便箋	地球磁気	池田六象
原稿	原稿用紙	場所から唄ふべき詩	池田すゞの

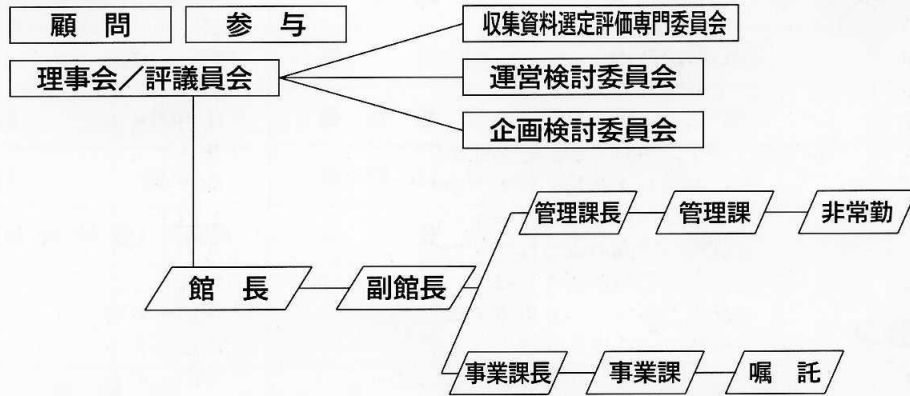
種 別	形 態	名 称	作 者
原稿	原稿用紙	(排他主義的文芸運動に…)	池田すゞの
原稿	原稿用紙	銖人の乙女	伊藤
原稿	原稿用紙	*草の花	伊藤
原稿	原稿用紙	雨中遠景	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	失題	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	編物	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	明るい風景 ほか	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	純粹詩論	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	年譜	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	溪谷	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	失へる塔	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	風景を歩む	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	湖	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	希臘古詩	伊藤秀五郎 (訳詩)
原稿	原稿用紙	近景	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	(無題)	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	花園	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	冬夜	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	水郷	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	遠き山	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	春装	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	三月光る	伊藤秀五郎
原稿	原稿用紙	森林	(伊藤秀五郎)
原稿	原稿用紙	薄光	(伊藤秀五郎)
原稿	原稿用紙	五月の日記	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	六号雑記 後記	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	印象一束	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	日記	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	十二月	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	(その他)	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	十一月	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	三月	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	三月	伊藤義輝
原稿	原稿用紙	静物と風景	菅野利助
原稿	原稿用紙	家のある風景	菅野利助
原稿	原稿用紙	つゆくさ	菅野利助
原稿	原稿用紙	秋に綴る	菅野利助
原稿	原稿用紙	微笑	菅野利助
原稿	原稿用紙	灯火草	菅野利助
原稿	原稿用紙	恋草	菅野利助
原稿	原稿用紙	雨降花	菅野利助
原稿	原稿用紙	蠟燭	菅野利助
原稿	原稿用紙	春になつたから	菅野利助
原稿	原稿用紙	みづばせう	菅野利助
原稿	原稿用紙	チュウリップ	菅野利助
原稿	原稿用紙	後日の話	菅野利助
原稿	原稿用紙	西洋木版画史	菅野利助
原稿	原稿用紙	木口木版の試作	菅野利助
原稿	便箋	早春情景	菅野利助
原稿	原稿用紙	彼は廻転が鈍った	菅野利助
原稿	原稿用紙	回想の家一つ	田上義也

種 別	形 態	名 称	作 者
原稿	便箋	回想の家(2)	田上義也
原稿		(家の図面)	田上義也
原稿	原稿用紙	陶工卯之助	富田碎花
原稿	原稿用紙	五月・六月	中山初枝
原稿	原稿用紙	雪と抒情 疾走する櫓 林檎	中山初枝
原稿	原稿用紙	詩の部屋 母達に与へる安楽椅子 海で	中山初枝
原稿	原稿用紙	幻想曲	中山初枝
原稿	原稿用紙	はるになるあめ はなひらく	
		雨あがるはるのあさけに	中山初枝
原稿	原稿用紙	魂の郷愁 かっこうかっこう immortal 雨 櫻	
			中山初枝
原稿	原稿用紙	青空と語る	中山初枝
原稿	原稿用紙	友情	中山初枝
原稿	原稿用紙	短歌習作 芥子の花 ちゅうりっぷ 牡丹	中山初枝
原稿	原稿用紙	蒲公英	中山初枝
原稿	原稿用紙	ち・ぐ・は・ぐ	中山初枝
原稿	原稿用紙	七月の食欲	中山初枝
原稿	原稿用紙	「さとぼろ」第廿五号ゲラ	中山初枝
原稿	原稿用紙	雪の中に燃えるもの	中山葉津繪
原稿	原稿用紙	雪晴れの朝	(中山葉津繪)
原稿	原稿用紙	夢・夢・夢	(中山初枝)
原稿	原稿用紙	詩集「雪と麵包」の序	野口米次郎(相川正義記)
原稿	原稿用紙	知見の風景画は歪んでゐる 一遍在の燭を点けたい	
		處女林地で 知見の風景画は歪んでゐる	服部光平
原稿	原稿用紙	一九二五・九月蘭島にて 海	服部光平
原稿	原稿用紙	山道で	服部光平
原稿	原稿用紙	眼のとどかぬ野原	服部光平
原稿	原稿用紙	なぞへに沿へる道	服部光平
原稿	原稿用紙	青き空の下	服部光平
原稿	原稿用紙	柳青む	服部光平
原稿	原稿用紙	象形文字	服部光平
原稿	原稿用紙	私は郊外の家へ帰るー私は郊外の家へ帰る	
		月が明るいので 嫩芽よ 野原で楡 ポプラ	アカシヤ
			服部光平
原稿	原稿用紙	でらいと・もれんぼ・えきすとら	服部光平
原稿	原稿用紙	海藻ー港 海藻 海I 海II	服部光平
原稿	原稿用紙	ら・だべる・こゝたく	服部光平
原稿	原稿用紙	逝く春(無題)	服部光平
原稿	原稿用紙	水を含みて風白し	服部光平
原稿	原稿用紙	秋の野で 9と6	服部光平
原稿	原稿用紙	月と樹	服部光平
原稿	原稿用紙	後記	服部光平
原稿	原稿用紙	旅の一日より 秋と。春と。	舟木黙児
原稿	原稿用紙	庭	真壁仁
原稿	原稿用紙	手紙出したら	圓方京子
校正紙		(「さとぼろ」校正用紙)	
校正紙		(「さとぼろ」校正用紙)	
校正紙		明るい風景 ほか 校正用紙	伊藤秀五郎
校正紙		(「さとぼろ」22号校正用紙)	(伊藤秀五郎)
詩稿	私の丘		伊藤義輝
詩稿	茶事		渡辺茂

種別	形態	名称	作者
書簡	便箋	更科源藏宛	尾崎喜八
書簡	便箋	更科源藏宛	中西悟堂
書簡	原稿用紙	更科源藏宛	深澤索一
書簡	便箋	更科源藏宛	藤原定
書簡	便箋	更科源藏宛	吉田一穂
書簡	便箋	更科源藏宛	吉田一穂
色紙	色紙	保険満期猫と夕餉を分ち合う	泉田美代子
色紙	色紙	軒下のつららが恋し昭和の世	井上洋二
色紙	色紙	イヤリング鼻輪に換えて春に行く	梅津忠篤
色紙	色紙	若者の新語が増えるビルの街	亀田篤
色紙	色紙	紅葉へ映画のような男女の歩	河上しづ子
色紙	色紙	白と赤毛糸が語る冬帽子	川端義雄
色紙	色紙	顔黒が浴衣で歩く真夏の夜	神戸かち坊
色紙	色紙	厚底で子を抱くママの千鳥足	佐藤勝美
色紙	色紙	テレビゲーム親が気をもむ二浪の子	佐山八重
色紙	色紙	芸術は服従的なものではない 芸術は征服である	島木健作
色紙	色紙	この冬も生きて行くぞとほっかぶり	関いさを
色紙	色紙	やんママは保育園にも厚底で	高橋民子
色紙	色紙	鮭ぶらり提げて温めに来た絆	竹内文江
色紙	色紙	春雷にうたれて案山子眠りさめ	田中敏
色紙	色紙	作文を読まれ涙の参観日	寺西竜水
色紙	色紙	コスモスの人待ち顔に無人駅	寺西竜水
色紙	色紙	今日の喜劇終りにしなと赤提灯	中川久邦
色紙	色紙	携帯を猫も杓子も持ち歩き	中西正二
色紙	色紙	押しくらまんじゅう友の背は温かった	中村愛子
色紙	色紙	漬樽へ想い巡らす忘母在る日	成田成
色紙	色紙	きっと来る寒波に負けぬ樹を囲う	成田ダイ吉
色紙	色紙	肩パット切って歩けば風四角	島山昭子
色紙	色紙	馬小屋をきれいにしよう十二月	浜本美茶
色紙	色紙	文学とは歴史に於ける木の芽でなきやならぬ	葉山嘉樹
色紙	色紙	年寄りが居る家らしい干し大根	福田銀河
色紙	色紙	石臼と語る苦楽の幾春秋	福田銀河
色紙	色紙	生涯現役雪は地から降ってくる	丸山美智子
色紙	色紙	てんてんてまり弾んで飛んだ虹の夢	水島綾子
色紙	色紙	おふくろの味受けついで樽並ぶ	宮下栄歌
色紙	色紙	赤字線駅の花壇のゆきとどき	山下白舟
色紙	色紙	母と子の長い話のいもかぼちゃ	倭文字
色紙	色紙	雪虫とひらひら落ち葉ジャンケンポン	吉田和香
葉書	官製葉書	更科源藏宛	伊東静雄
葉書	官製葉書	更科源藏宛	内田吐夢
葉書	官製葉書	更科源藏宛	木山捷平
葉書	私製葉書	小田観螢宛	五島茂
葉書	官製葉書	小田観螢宛	島木赤彦(久保田俊彦)
葉書	絵葉書	更科源藏宛	武田泰淳
葉書	私製葉書	更科源藏宛	中西悟堂
葉書	私製葉書	更科源藏宛	前川千帆
葉書	官製葉書	更科源藏宛	山中散生

■ 組織及び役職員 ■

■ 組織機構図



■ 財団法人北海道文学館役員等の状況

<理事・監事>

役職名	氏名	就任年月日
理事長	澤田 誠一	H12. 5. 30
副理事長	河邨文一郎	H12. 5. 30
副理事長	園田夢蒼花	H12. 5. 30
副理事長	木原直彦	H12. 5. 30
副理事長	小杉捷七	H12. 5. 30
専務理事	西村 信	H12. 5. 30
常務理事	安藤孝次郎	H12. 5. 30
理事	朝倉 賢	H12. 5. 30
理事	神谷忠孝	H12. 5. 30
理事	亀井秀雄	H12. 5. 30
理事	木村敏男	H12. 5. 30
理事	木村真佐幸	H12. 5. 30
理事	工藤欣彌	H12. 5. 30
理事	小檜山博	H12. 5. 30
理事	高橋揆一郎	H12. 5. 30
理事	谷口亜岐夫	H12. 5. 30
理事	田村哲三	H12. 5. 30
理事	辻脇系一	H12. 5. 30
理事	永井 浩	H12. 5. 30
理事	原子 修	H12. 5. 30
理事	村井 宏	H12. 5. 30
理事	山名康郎	H12. 5. 30
監事	比良信治	H12. 5. 30
監事	斎藤大雄	H12. 5. 30

<顧問>

伊藤 義郎 坂野上 明 高山 亮二 堂垣内尚弘
長野 京子 原田 康子 堀 寛 山口 昌男

<参与>

上西 晴治(作家) 岡澤 康司(俳人) 小林 孝虎(歌人)
重森 直樹(作家) 高橋 和光(歌人) 高畠 二郎(評論)
樋口 游魚(俳人) 平山 廣(文学研究)

<評議員>

氏名	就任年月日	氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
東 延江	H12. 5. 30	桜井 健治	H12. 5. 30	中島 洋	H12. 5. 30
新井 章夫	H12. 5. 30	佐藤 庫之介	H12. 5. 30	中山 昭彦	H12. 5. 30
飯塚 優子	H12. 5. 30	塩見 一釜	H12. 5. 30	永田 富智	H12. 5. 30
伊東 廉	H12. 5. 30	柴村 紀代	H12. 5. 30	新妻 博	H12. 5. 30
井上 久志	H12. 5. 30	菅原 政雄	H12. 5. 30	野坂 政司	H12. 5. 30
大川 佐稚子	H12. 5. 30	杉野 一博	H12. 5. 30	萩原 貢	H12. 5. 30
大澤 哲夫	H12. 5. 30	鈴木 光彦	H12. 5. 30	菱川 善夫	H12. 5. 30
小野 規矩夫	H12. 5. 30	鈴木 八駿郎	H12. 5. 30	平澤 秀和	H12. 5. 30
笠井 嗣夫	H12. 5. 30	高野 斗志美	H12. 5. 30	藤岡 郷子	H12. 5. 30
笠原 多一	H12. 5. 30	高橋 明雄	H12. 5. 30	前川 公美夫	H12. 5. 30
加藤 義昭	H12. 5. 30	高橋 康雄	H12. 5. 30	光城 健悦	H12. 5. 30
金丸 戈止夫	H12. 5. 30	武井 静夫	H12. 5. 30	南 利一	H12. 5. 30
金箱 草之介	H12. 5. 30	立花 峰夫	H12. 5. 30	宮田 黄李夫	H12. 5. 30
河地 慶一	H12. 5. 30	田中 和夫	H12. 5. 30	森 一生	H12. 5. 30
北 光星	H12. 5. 30	田中 厚一	H12. 5. 30	八子 政信	H12. 5. 30
工藤 正廣	H12. 5. 30	谷 暎子	H12. 5. 30	藪 禎子	H12. 5. 30
倉島 廣齊	H12. 5. 30	千葉 宣一	H12. 5. 30	山下 和章	H12. 5. 30
後藤 軒太郎	H12. 5. 30	藤堂 志津子	H12. 5. 30	山本 丞	H12. 5. 30
西條 正人	H12. 5. 30	時田 則雄	H12. 5. 30	吉田 秋陽	H12. 5. 30
斎藤 一郎	H12. 5. 30	富田 正一	H12. 5. 30	鷲谷 峰雄	H12. 5. 30
斎藤 征義	H12. 5. 30	鳥居 省三	H12. 5. 30	和田 由美	H12. 5. 30
		中澤 千磨夫	H12. 5. 30		

(注) 死去 高橋 康雄 H12. 7. 4 田村 哲三 H12. 7. 26 西村 信 H12. 11. 3
北 光星 H13. 3. 17

<収集資料選定評価専門委員会>

氏名	所属等
神谷忠孝	理事(文学研究)
木村敏男	“(俳句)
田村哲三	“(短歌)
永井浩	“(詩)

<運営検討委員会>

氏名	所属等
河邨文一郎	副理事長(詩)
朝倉賢	理事(小説、シナリオ)
工藤欣彌	“(小説)
谷口明雄	“(俳句)
西條正人	評議員(会社役員)

<企画検討委員会>

氏名	所属等
神谷忠孝	理事(文学研究)
原子修	“(詩)
加藤多一	評議員(児童文学)
工藤正廣	“(外国文学)
柴村紀代	“(児童文学)
笠井嗣夫	“(詩・評論)
斉藤征義	“(詩)

氏名	所属等
鈴木光彦	評議員(俳句)
立花峰夫	“(文学研究)
谷暎子	“(児童文学)
前川公美夫	“(文学研究)
森一生	“(演劇)
藪禎子	“(文学研究)
吉田秋陽	“(短歌)

■職員名簿(平成12年4月1日現在)

職名	氏名
館長(財団副理事長)	小杉捷七
副館長(財団専務理事)	西村信
副館長(財団常務理事)	池田忠之
管理課長	桑原拓
主査	横浜隆志
主事	坂野透
事業課長	平原一良
主査	青柳文吉
主任	原田英明
司書	小川靖子
主任	宮坂頌子

職名	氏名
主任	岡本茂子
主任	丹伊田範子
主事	成田麻衣子
主事	高橋明子
主事	松尾文子
主事	関田千鶴

池田忠之 5月31日 退職

後任 安藤孝次郎 6月1日付

■ 諸会議・運営日誌 ■

- H12 4. 14 (金) 第1回役員改選小委員会
- 〃 4. 21 (金) ポエトリー・リーディング (熊谷ユリヤ 他)
- 〃 4. 22 (土) 映像作品鑑賞のつどい「白痴」
- 〃 4. 29 (土) 特別企画展「挿絵と装幀の小宇宙」開幕 (7月2日まで)
- 〃 5. 10 (水) 第2回役員改選小委員会
- 〃 5. 19 (金) 第1回理事会、評議員会
- 〃 6. 4 (日) 文芸講演会「書物をめぐる断章」(山口昌男)
- 〃 6. 17 (土) 映像作品鑑賞のつどい「スティング」
- 〃 6. 18 (日) 展示室たんけん会
- 〃 6. 25 (日) 展示室たんけん会
- 〃 7. 1 (土) 文芸セミナー「響き合う美術と文学」(村上善男)
- 〃 7. 25 (火) 夏休みファミリー文学館「ぼくも・わたしも絵本作家」(29日まで)
- 〃 7. 28 (金) 第1回企画検討委員会
- 〃 8. 12 (土) 特別企画展『北緯五十度』の詩人たち」開幕 (10月9日まで)
- 〃 8. 13 (日) 高橋揆一郎・自作朗読とトークのつどい (高橋揆一郎、松井信子)
- 〃 8. 19 (土) 講演・公開座談会『北緯五十度』-詩人たちの世界」(盛厚三ほか)
- 〃 8. 26 (土) 映画上映とトーク「第七官界彷徨～尾崎翠を探して～」(浜野佐知、山口昌男ほか)
- 〃 9. 10 (日) 『北緯五十度』の詩篇を読む会 (工藤正廣)
- 〃 9. 16 (土) 古書バザール (17日まで)
- 〃 9. 22 (金) 第2回企画検討委員会、文学館交流会 (ライフポート札幌)
- 〃 9. 23 (土) フォーラム「現代詩と北海道」(永井浩・原子修・笠井嗣夫・斉藤征義他)
- 〃 9. 26 (火) 博物館学芸員実習 (10月7日まで)
- 〃 10. 7 (土) 文芸セミナー「歌人・中城ふみ子をめぐって」(吉田真弓)
- 〃 10. 21 (土) 映像作品鑑賞のつどい「挽歌」
- 〃 10. 28 (土) 秋のファミリー文学館「絵本の館のたからもの」開幕 (11月19日まで)
- 〃 10. 29 (日) ファミリー文学館記念講演会「絵と文・出会いの裏話」(加藤多一)
- 〃 11. 1 (水) 文化週間 (常設展無料公開) (7日まで)
- 〃 11. 3 (金) 文芸セミナー「私のネット文学体験」(佐野良二)

- ” 11. 4 (土) 映像作品鑑賞のつどい「挽歌」
- ” 11. 10 (金) 雪雄子舞踏ワークショップ
- ” 11. 11 (土) 文学館ウィークエンドカレッジ (WEC) 開講 (3月末まで)
- ” 11. 25 (土) WEC公開講座「美術論」(浅川泰)
- ” 12. 2 (土) 映像作品鑑賞のつどい「忠臣蔵」
- ” 12. 17 (日) WEC公開講座「『北海道』論」(山口昌男)
- ” 12. 20 (水) 故・西村信さん (前副館長) を偲ぶ会
- ” 12. 23 (土) クリスマス・コンサート (赤坂孝吉)
- ” 1. 9 (日) 企画展「版画に生きる大自然」開幕 (28日まで)
ロビーコンサート「池田千鶴子ロマンティックハーブ」
- ” 1. 10 (水) 冬休み版画教室 (12日まで)
- ” 1. 13 (土) WEC公開講座「書誌学特講」(小山内時雄) (14日まで)
- ” 1. 20 (土) スライドトーク「極寒に生きる生き物たち」(手島圭三郎)
- ” 1. 27 (土) WEC公開講座「漫画論特講」(畑中純)
- ” 2. 3 (土) 新進監督映像作品鑑賞会「ホームシック」他 (水戸ひねき)
- ” 2. 10 (土) 企画展「花咲く北の川柳」開幕 (3月11日まで)
- ” 2. 12 (月) 映像作品鑑賞のつどい「雪国」
- ” 2. 17 (土) シンポジウム「川柳・世相・人間」(斎藤大雄 他)
- ” 2. 18 (日) 文芸講演会「生きてきた川柳・あしたの川柳」(斎藤大雄)
- ” 2. 20 (火) **第3回企画検討委員会**
- ” 2. 24 (土) WEC公開講座「編集論」(石塚純一)
- ” 3. 3 (土) 川柳ワークショップ
- ” 3. 4 (日) 川柳大会
- ” 3. 7 (水) **運営検討委員会**
- ” 3. 11 (日) WEC公開講座「『東北』論」(村上善男)
- ” 3. 17 (土) 企画展「Visual Poetica 2001 in SAPPORO」開幕 (4月8日まで)
第2回理事会・評議員会
- ” 3. 24 (土) WEC公開講座「編集論」(平原一良)

<付録>

北海道立文学館利用規則

北海道教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第14条第1項並びに第23条第1号及び第12号の規定に基づき、この教育委員会規則をここに制定する。

（趣旨）

第1条 北海道立文学館の利用については、法令等に定めるもののほか、この教育委員会規則の定めるところによる。

（文学館の目的）

第1条の2 北海道立文学館（以下「文学館」という。）は、文学に関する書籍、原稿、書簡、文献、写真その他の資料及び文学者の遺品等（以下「文学資料」という。）を収集し、保存し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする。

（文学館の事業）

第1条の3 文学館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 1 文学資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 文学館が収集した文学資料を閲覧に供すること。
- 3 文学に関する展覧会、講演会、講座、映画鑑賞会その他の催し（以下「文学に関する催し」という。）を開催し、及び他の行うそれらの催しに協力すること。
- 4 一般公衆に対して、文学資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
- 5 特別展示室又は講堂（以下「特別展示室等」という。）を文学に関する催しの利用に供すること。
- 6 文学及び文学資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 7 文学資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 8 文学に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書を作成し、及び配布すること。
- 9 他の文学館、図書館、美術館、博物館、研究機関等と緊密に連携し、及び協力し、刊行物及び情報の交換、文学資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 地域における学校、図書館、公民館等の教育又は文化に関する諸施設が行う文学に関する活動を援助すること。
- 11 その他文学館の目的を達成するために必要な事業

（開館時間）

第2条 文学館の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 文学館の管理運営上特別の必要があるとき又は非常変災その他急迫の事情があるときは、教育長は、臨時に、前項の開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により開館時間を変更したときは、教育長は、その旨を文学館に掲示しなければならない。

(休館日)

第3条 文学館は、次に掲げる日には休館する。

1 月曜日

ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後において、その日に最も近い休日でない日。

2 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで

2 文学館の管理運営上特別の必要があるときは、教育長は、前項に規定する休館日に開館することができる。

(臨時休館)

第4条 前条第1項に定めるもののほか、文学館の管理運営上特別の必要があるとき又は非常変災その他急迫の事情があるときは、教育長は、臨時に、休館することができる。

2 第2条第3項の規定は、前項の規定により臨時に休館する場合について準用する。

(入館の制限)

第5条 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれがある者に対しては、教育長は、入館を断ることができる。

(入館者の遵守事項)

第6条 入館者は、文学館の利用につき、この規則及び教育長の指示に従うほか、特に次に掲げる事項を遵守しなければならない。

1 建物、附属設備又は文学館資料（文学館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。以下同じ。）を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

2 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

3 指定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

2 入館者が前項の規定に違反し、かつ、文学館の管理運営上支障があると認めるときは、教育長は、当該入館者を退館させることができる。

(入館の細目)

第7条 前2条に定めるもののほか、入館に関し必要な事項は、教育長が定める。

(観覧料の免除)

第8条 次に掲げる者が文学館における常設展示又は展覧会（特別企画によるものの展覧会を除く。）を観覧する場合は、その観覧料を免除する。

- 1 小学校の児童並びに中学校及び高等学校の生徒並びにこれらに準ずる者（特別展示を除く。）
 - 2 小学校の児童又は中学校の生徒を引率する校長又は教員
 - 3 盲学校、聾学校及び養護学校の児童又は生徒の引率者
 - 4 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者
 - 5 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその引率者
 - 6 生活保護法（昭和25年法律第144号）による生活保護を受けている者
 - 7 児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された者及びその引率者
 - 8 精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。）と判定された者及びその引率者
 - 9 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第15条に規定する老人福祉施設に入所している者及びその引率者
 - 10 65歳以上の者
 - 11 その他教育長が前各号に準ずる者と認めるもの
- 2 前項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、同項各号に該当する者であることを証する書面を教育長に掲示しなければならない。
 - 3 第1項に該当する場合を除き、観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（別記第1号様式）を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。
 - 4 教育長は、前項の規定により観覧料を免除するときは、観覧料免除書（別記第2号様式）を交付するものとする。

（特別展示室等の利用の承認）

第9条 文学に関する催しを行うため、特別展示室等を利用しようとする者は、あらかじめ、特別展示室等利用申請書（別記第3号様式）を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 教育長は、前項の規定により特別展示室等の利用を承認したときは、特別展示室等利用承認書（別記第4号様式）を交付するものとする。

（特別展示室等の利用の不承認）

第10条 教育長は、前条第1項の申請が次のいずれかに該当すると認める場合は、その利用を承認しないものとする。

- 1 利用の目的が文学館の目的に沿わないとき。

2 文学館の秩序を乱すおそれがあるとき。

3 文学に関する催しの料金が1人につき、1,350円を超えるとき。

4 その他文学館の管理運営上支障があるとき。

2 教育長は、前項の規定により特別展示室等の利用を承認しないときは、申請者に対し、書面により、その旨を通知するものとする。

(特別展示室等の利用の承認の取消等)

第11条 教育長は、特別展示室等の利用の承認を受けた者（以下「利用者」という。）が次のいずれかに該当すると認める場合は、その承認を取り消し、又はその利用を制限し、若しくは停止することができる。

1 利用の申請に偽りがあったとき。

2 この教育委員会規則に違反したとき。

3 故意又は重大な過失により施設設備を破損し、又は滅失したとき。

4 その他文学館の管理運営上支障があるとき。

(施設設備の変更の禁止)

第12条 利用者は、特別展示室等の利用において、その施設設備に特別な設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ、教育長の承認を受けたときは、この限りでない。

(原状回復の義務)

第13条 利用者は、特別展示室等の利用を終了したときは、その利用に係る施設設備を原状に回復しなければならない。第11条の規定により利用の承認を取り消され、又は利用を制限され、若しくは停止されたときも、同じとする。

(使用料の免除)

第13条の2 特別展示室等の利用が次のいずれかに該当する場合はその使用料の免除を受けることができる。

1 道立文学館との共催により開催する文学に関する催しのため利用するとき。

2 その他教育長が必要と認めるとき。

2 前項の規定により使用料の免除を受けようとする者は、あらかじめ、使用料免除申請書（別記第4号様式の2）を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 教育長は、第1項の規定により使用料を免除するときは、申請者に対し、使用料免除書（別記第4号様式の3）を交付しなければならない。

4 教育長は、使用料を免除しないときは、申請者に対し、書面により、その旨を通知しなければならない。

(文学館資料の閲覧)

第14条 文学館資料（文学館が他から借り受けたものを除く。第2項、第4項及び次条から第19条までの規定

において同じ。)を閲覧しようとする者は、あらかじめ、文学館資料閲覧申込書(別記第5号様式)を教育長に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、保存対策上特別の取扱いを要する文学館資料(以下「特別資料」という。)を閲覧しようとする者は、あらかじめ、特別資料閲覧申請書(別記第6号様式)を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 教育長は、前項の規定により特別資料の閲覧を承認したときは、特別資料閲覧承認書(別記第7号様式)を交付するものとする。

4 文学館資料は、所定の場所で閲覧しなければならない。

(閲覧の制限)

第15条 この教育委員会規則その他の規程に違反した者及び教育長の指示に従わない者に対しては、教育長は、文学館資料の閲覧を禁止することができる。

(特別利用の承認等)

第16条 文学館資料の撮影、複写又は模造(以下「特別利用」という。)を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書(別記第8号様式)を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 教育長は、前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書(別記第9号様式)を交付するものとする。

3 特別利用は、教育長の指示に従って行わなければならない。

4 教育長は、特別利用の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

(撮影品等の刊行等の承認)

第17条 文学館資料を撮影し、複写し又は模造したもの(以下「撮影品等」という。)を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、撮影品等使用申請書(別記第10号様式)を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 教育長は、前項の規定により撮影品等の刊行等を承認したときは、撮影品等使用承認書(別記第11号様式)を交付するものとする。

(文学館資料の貸出し)

第18条 文学館資料は、次に掲げる者に対して貸出しをすることができる。

1 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部大臣の指定した博物館に相当する施設の長

2 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館の長

3 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館の長

- 4 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校の長
 - 5 その他教育長が適当と認める者
- 2 前項の規定により貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、文学資料貸出申請書（別記第12号様式）を教育長に提出し、承認を受けなければならない。
 - 3 教育長は、前2項の規定により文学館資料の貸出しを承認したときは、文学資料貸出承認書（別記第13号様式）を交付するものとする。

（貸出期間等）

第19条 文学館資料の貸出期間は、30日以内とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、教育長は、特に必要と認めたときは、文学館資料の貸出期間を延長することができる。
- 3 教育長は、必要があるときは、貸出期間中であっても、文学館資料の返還を求めることができる。

（破損等の責任）

第20条 文学館の入館者、特別展示室等の利用者、文学館資料の閲覧者若しくは特別利用を行う者又は文学館資料の貸出しを受けた者が、その施設設備又は文学館資料を破損し、又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補則）

第21条 この教育委員会規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

（施行期日）

この教育委員会規則は、平成7年1月4日から施行する。

附 則

この教育委員会規則は、公布の日から施行する。

（様式は省略）

平成12年度年報

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

北海道立文学館・(財)北海道文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号

TEL (011) 511-7655 FAX (011) 511-3266

[印刷：中西印刷株式会社]